

塗料原材料価格高騰中・日銀の製造業部門投入物価指数 2022年3月

月の動向

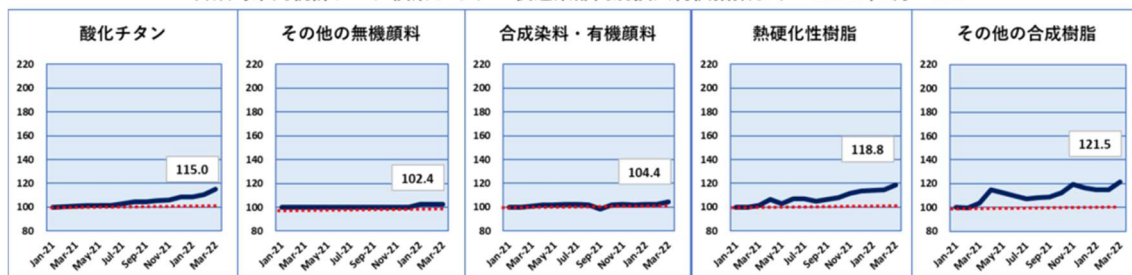
- 金曜日 - 06月 2022

4月末に、掲題の日銀の製造業部門投入物価指数 2022年3月の値が発表になりました。塗料に関係がありそうな物質を選んでご紹介します。日銀の発表は2011年=100の指数値として発表されますが、ここでは2021年1月=100とした指数値にご紹介します。この投入物価指数は極めて多数の物質の価格指数が収録されていますので、ご興味のある方は下記 URL をご参照ください。

[https://www.stat-search.boj.or.jp/ssi/cqi-bin/famecqi2?cqi=\\$nme_a000&lstSelection=PR03](https://www.stat-search.boj.or.jp/ssi/cqi-bin/famecqi2?cqi=$nme_a000&lstSelection=PR03)

最初はあまり原材料価格が高騰していないものからです。

日銀時系列統計データ検索サイト 製造業部門別投入物価指数より 2021年1月=100

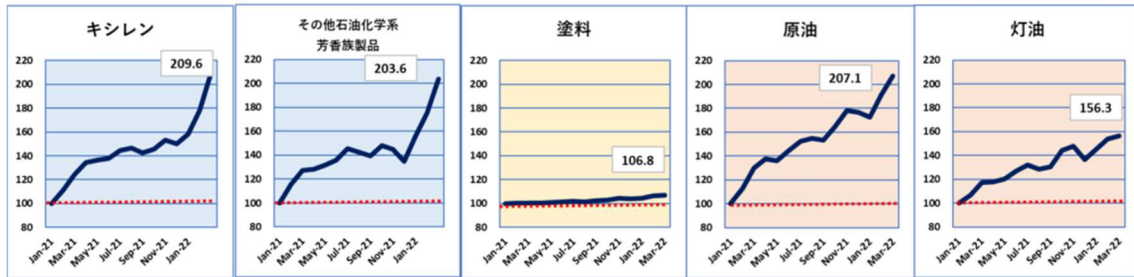


あまり高騰していないと書きましたが、代表的な塗料原料である酸化チタンは2021年1月以降カ月で15%上昇しています。樹脂の価格があまり高騰していないように思われますが、これは前回も述べたように、原油などの価格上昇からかなりタイムラグがあって顕在化するという理由によるものと考えられています。次はかなり価格が高騰しているものです。

日銀時系列統計データ検索サイト 製造業部門別投入物価指数より 2021年1月=100



カーボンブラックは油を燃焼させて煤を取り製造していますので、無機顔料(単純な炭素の化合物は無機物ではなく無機物)にもかかわらずかなり価格が上昇しています。残りのものも石油由来のものが多いと思われるので、かなりの価格高騰となっており、特に3月はスチレンモノマーの価格が急上昇しました。最後に非常に価格が高騰しているものです。



塗料原材料の中では、やはりキシレン、芳香族系製品の高騰が最も著しくなっており、原油とほぼ連動する動きになっています。一方で塗料は継続的に価格上昇中ではありますが、15カ月かけて608%の上昇に過ぎません。

2月から3月にかけての指数値の上昇を一覧表にしてみました。

2022年2月から3月にかけての指数（2021年1月=100）の変化

品目	Δ指数	品目	Δ指数	品目	Δ指数
酸化チタン	4.4	合成アルコール類	-0.3	塗料	0.6
カーボンブラック	3.0	スチレンモノマー	22.8	原油	15.8
その他の無機顔料	0.0	合成染料・有機顔料	1.7	灯油	2.6
純トルエン	2.7	可塑剤	0.0	軽油	2.5
キシレン	31.6	熱硬化性樹脂	4.1		
その他の芳香族製品	28.2	その他の合成樹脂	6.4		

特に指数値がこの1か月で跳ね上がったのは、キシレン、芳香族製品、スチレンモノマーでした。円安がさらに進み、産油国も増産の兆しがありません。塗料の原料価格はまだまだ上昇すると思われる。